



広報 なかわだ

第 357 号

6 月の予定

教会委員会	6 月 14 日
典礼委員会	5 月 31 日
堅信式	6 月 7 日
聖ペトロ聖パウロ使徒	6 月 29 日 19 時



2009 年 6 月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1

Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成 21 年 6 月 7 日



ミサの中の奉納

主任司祭 小林 陽一



主日のミサの奉納の時、小学校入学前の男の子、女の子、時々小学生、そしておとなの人、若者も、パンとぶどう酒、献金のかごを聖堂の入口から祭壇に行列をしてささげて下さいます。奉納には深い意味があることに気が付きました。

少し固い文章ですがお許し下さい。奉納は生ける人、そして死せる人の為でもあります。「キリストの奉納には、今、この世に生きる人だけではなく、すでに天の栄光に入った人たちもともに参加します。教会は、いと聖なるおとめマリアに結ばれ、マリアやすべての聖人たちを記念しながら、エウカリスチヤのいけにえをささげます。エウカリスチヤ（聖体祭儀）を行うとき、教会は、いわばマリアと共に十字架のもとにたたずみ、キリストの奉献ととりなしに結ばれるのです。」（「カトリック教会のカテキズム」P417—1370 番）また、「聖体祭儀のいけにえ（神へのささげもの）は、キリストに結ばれて生涯を終え、煉獄にその魂が居られる亡くなった信者が、キリストの光と平安に与ることができるようになる為にもささげられます。」（同、1371 番）

ということは、パンとぶどう酒、献金の捧げ物は、ミサに来た人のために、そしてミサに来られなかった人のためにささげられますが、同時に亡くなった人たちがキリストの光と平安に与ることができるようになる為にもささげられている、ということでした。

エルサレムの聖チリロの「秘義教話」にあるものですが、次のような事が記されています。

「次に、私たちは、（奉献文の中で）亡くなった聖なる教父や司教たちのため、また私たちに先立って亡くなった人々全体の為に祈ります。聖にして、これ程に尊いいけにえがささげられている間になされとりなしの祈りが、彼らのために大いに役立つだろうと信じているからです。……たとえ亡くなった人々が罪人であったにせよ、彼らのために祈りをささげ、……人々の友である神に、亡くなった人々や私たちに対するあわれみを願って、私たちの罪のためにいけにえとなられたキリストをおささげするのです。」（同、1371 番）

聖アウグスチヌスは、「この御聖体の秘跡において教会が神にささげるもののうちに、教会そのものがささげられるということが教会に示されるのです。（アウグスチヌスの神の国）」（「カトリック教会のカテキズム」P418）と言っています。

ミサの中の奉納は、亡くなった友人、知人、恩人のためにささげられ、ひいては教会そのものが神にささげられる、という点が心にひびきました。



パウロの宣教地を訪ねて

第3回 「アジアの七つの教会」

下村 毅

ヨハネの黙示録にあるアジアの七つの教会とは、第3回宣教で「アジアの全ての住民・ユダヤ人もギリシャ人も、主のみ言葉を聴くようになった」とパウロは評価しています。そして、ヨハネの黙示録1章「天上におけるキリストの姿」では、-10ある主の日のこと、わたしは“霊”に満たされているが、後ろの方でラッパのように響く大声を聞いた。その声はこう言った「あなたの見ていることを巻物に書いて、エフェソ・スミルナ・ベルガモン・ティアティラ・サルデス・フィラデルフィア・ラオディキ（パウロの時代の地名）の七つの教会に送れ」。-12わたしは語りかける声の主を見ようと振り返ると七つの金の燭台がみえた……-20七つの星は七つの教会の天使にたち、燭台は七つの教会である —— の教会を巡礼した。

◎デニズリ（現在地名）「ラオデキアにある教会にあてた手紙」

：「ヨハネの黙示録」七つの教会（3章14～22）

「十字架印しの石」がある、大きな都市遺跡

○サルト「サルデスにある教会にあてた手紙」：（3章1～6）

大きな柱2本と折れた柱数本が残る遺跡（紀元後出来たレンガの聖堂跡もある）

◎アラシュヒル「フィラデルフィアにある教会にあてた手紙」：（3章7～13）

現在は街の中で、太い門柱の遺跡があるのみ。

○イズミール「スミルナにある教会にあてた手紙」：（2章8～11）

10本の列柱通が残り、その下に半地下のアゴラ（商店街）がある。

○セルジューク「エフェソにある教会にあてた手紙」：「エフェソの信徒への手紙」

（2章1～7）マリアの家は石造りで現在は聖堂に

なって残されている。マリアとヨハネが住んでいた家でもあった。

・更にエフェソには聖ヨハネ教会は、聖母マリアと聖ヨハネが住み、聖ヨハネの墓がある。

○アクヒサル「ティアティラにある教会にあてた手紙」（2章18～29）パウロが

マケドニア伝道の最初に信仰を持った「紫商人ルデヤ」の出身地。遺跡の目の前に紫布の商店がある。

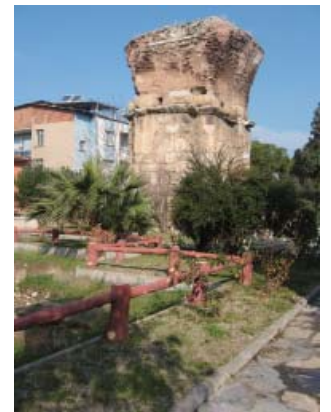
◎ベルガマ「ベルガモにある教会にあてた手紙」（2章12～17）

大きな遺跡で、地震で陥没して、二つの大きな山に分かれている。

アスクルピオン側のローマの道から反対の山にベルガモ劇場が見える。



ラオデキア



フィラデルフィア



マリアの家



ベルガモ

旅のよもやま話

❖ その1 「靴底をトイレで洗う」1月16日カッパドキア奇岩洞窟食堂で昼食後、激しい雨が降り出した。16時頃「デルベの丘」（パウロが第1回宣教旅行で引き返した所）手前で農道に入った。道は未舗装の粘土質で、バスがスリップし畑に脱輪した。一度は全員で押し上げ「事無きを得た」が、二度目は更に条件が悪くなり、どうにもならず立ち往生した。日も落ち暗くなる中運転手は責任を取り、「遙か向こうに灯りが見える農家」にブルトーザーを呼びに行った。救援車が来た時は真っ暗闇になり「これで助かった」と皆で歓声をあげた。途中ガソリンスタンドで、洗車や靴底を洗った。しかし、ホテルに着くと絨毯の上には泥が落ちる。急いで部屋に入り、トイレの便器に、靴を入れ靴底の泥を流したが旨く行かず苦労した。こんなの初めての経験だった。

❖ その2 「鱸（すずき）の刺身」1月20日アソス（漁業の町）の夕食時、石造りの食堂は暖炉に薪が焚かれ「柔かい」暖かさだ。室内も漁師の網・ロープ・貝殻で飾られ、良い雰囲気の中で「ここは魚が旨い」と話していた。丁度、漁師が帰って来て「鱸（40cm 位）が取れた」と言う。添乗員が交渉してくれ「刺身にして食べよう」と言うことになった。夫津木神父が「私がやる」と言われ、西洋包丁（先端が切れない）と新聞紙を敷いたまな板でさばいてくれた。しかし、「ワサビが無い」ので「塩・胡椒・サラダ油・醤油」のカルバッチョにしてくださった。私も、日本酒を持っていたので（一合紙パックを何時も持って行く）皆に振舞った。これで夕食は盛り上がり、皆の地元魚や、酒の話で楽しいひと時を過ごした。

13日間の旅は、天気・体調にも恵まれいろいろな思い出を残した巡礼でした。 「神に感謝」



5月の要理学校だより

5月10日 第5地区教会学校合同遠足に参加しました！

今年の合同遠足は藤沢の新林公園でのレクリエーション、藤沢教会での奉納物制作と野外ミサでした。藤沢、鍛冶ヶ谷、大船、片瀬、戸塚、原宿、中和田、の7つの教会から総勢80名ほどの子供達が集まりました。素晴らしいお天気の中、ゲームをとおして他教会との交流もでき、充実した楽しい一日を過ごすことができました。

◆ぼくは、昔の井戸を見たり、池の生き物をグループの人と見つけたりするのが楽しかったです。和野神父様とみんな追いかけてしたのも思い出になりました。 美底 光紀



◆ぼくはじゃんけんゲームで5かいかったのがたのしかったです。おへやでさかながいたぬまのえをかきました。いろりもかきました。 美底 ひでき

5月24日 聖歌の練習をしました

岩 渕 洋子

6月7日、中和田教会では堅信式が行われます。要理学校の子供たちのお兄さん、お姉さんはもちろんのこと、先輩方や大人の方たちが信仰を強めるための秘跡を受けられます。御ミサの後のパーティーで子供たちに歌を歌って欲しいと依頼されましたので、「忘れないで」という歌を練習しました。

その前に私の小学校時代の話をしました。ピアノを習い始めたのは小学1年の冬でした。低学年のころは一日3回の練習、高学年になっても2回の練習は欠かさず、おかげでどんどん上達し、難しい曲も弾けるようになりました。でもお友達と一緒に登校できない不満や、放課後ゆっくり遊べない悔しさが募り、何度かピアノをやめたいと母に訴えました。でも母は「自分で習いたいと言ったのだから途中であきらめず、最後まで頑張りなさい」と言ってやめさせてくれませんでした。そのおかげで、今、中和田教会のオルガニストをしていただけるのは厳しい母の教育のおかげかなと、感謝できるようになりました。

中和田の子どもたちもサッカー、ピアノ、ダンス等々、色々な習い事をしています。最初は楽しくても、だんだん難しくなってやめたいなと思うことがあるかもしれませんが、努力を惜みず、できるところまで頑張ってください、そして神さまはそんな君達の姿を見て応援してくれているよ、というお話をしました。

「忘れないで」は初めて歌った歌でしたが、大きな声で一生懸命練習したので、上手に歌えました。子供たちの澄んだきれいな歌声を、ご期待ください！！



切支丹屋敷最後の住人 シドッチ神父

(その - 2)

鶴田 恒之

当時、前年（宝永4年）に、富士山の宝永大爆発が起きている。その時のことは、「富士山根湯、須走より焼ける。天高く雷鳴響きわたり、江戸に白灰降り雪のごとし。11月24日、天高く晴れ、人々日を拝み、諸人安堵するも、再び灰が降り、11月25日には黒灰多く降る。・・・」とある。

徳川将軍綱吉の子、徳松が体が弱く、甲府から家宣（後に綱吉の跡を継いだ）を迎えたが、その家宣の侍講（先生のような役目）をつとめたのが新井白石である。この白石の元にシドッチ神父が送られたのは、後のことである。その頃、綱吉の子、徳松が亡くなって、真言宗の隆光和尚に相談した際、「前世において殺生をした報いである」と言われ、その経緯で「生類憐れみの令」が発せられたという。今の中野に犬小屋を作り、捨て犬を集め、その数十万頭に及び、人間の乗る駕籠に我が物顔に乗るお犬様がお通りになったという。いろいろ騒動もあり、大衆は辟易としていたところに、富士山の爆発が起きた。綱吉が亡くなって、跡を継いだのが、第六代将筆家宣で、非常に優れた人で、直ちに「生類憐れみの令」を解き、騒ぎは収まったという。



このような騒ぎが続いたため、シドッチ神父のことは忘れられていたが、江戸に送られたのは年号が変わる前後の正徳2年（1709年）の12月から2月頃で、新井白石が取り調べたことが細かく記されている。最初の取り調べは12月4日で、神父は抑えきれない喜びを満面に表し、「イタリアでは新年を祝うめでたいときであり、この良き日に取り調べを受けることは・・・」と胸で十字を切り、瞑目して黙

祈し、神に感謝して答えた、とあります。新井白石が尋問する時立ち会ったのは、大通詞（主任通訳）・今村源衛門、稽古通訳・早川兵次郎ほか警



新井白石：七代将軍徳川家宣に仕え正徳の治を主導。シドッチ神父への尋問後『西洋紀聞』『采覧異言』を記す

護の数人。神父は牢から歩くこと儘ならず、左右から手を貸さねばならぬ状態。
しかし、日本語は一年以上経ったためか大分上手になったとみえ、白石は不十分ながら会話が出来ることをさとした。シドッチ神父は、質問に対し、熱心に答えた。また、その中で神父は、聖書のいくつかの件を述べている。「モーゼスから1800年、今からおよそ1700年前、ジョデョラ（ユダヤ）の国のナザレツにサントス・マリアなる聖女あり。ベテレアムのダビアットの子孫にして、16歳の時、天よりアンゼルス降りて、神の命を受け、男子神の子として生まれ、その名イエズス・キリストと言う。云々」など。白石は、裁くというより、むしろ切支丹を研究したという。蘭学者として食欲に、細大漏らさず、根ほり葉ほり聞いている。また神父も、完全にその意を伝えようと努力した。結果はというと、「彼の説く教法は滑稽千万。そして浅はかで弁ずるにあたわず」と一蹴された。

これは、邪法とされている切支丹に対し、時の権力者の儒者が、少しでも褒めることが許されず、故にその為の批評と思われる。しかし、白石は、「彼は見聞広く、多学に優れ、天文、地理のことに至っては、企及ぶべしと覚えず。また謹厳にして、小善に服するところありき。彼方の学びの如きは、天地の如きもこれを造れるものありと言うが、怪しむに足らず。」と書いている。さらにまた、「彼の法にて尊み仕え給う天主と申し候は、天地万物を造りだし候。神霊にして、人の善悪なるものを鑑み、善なるもの天堂に昇らせ、悪なるもの地獄に落とし候こと、主と相聞こえ候。その修行の法、ことごとく仏法に同じく相見え候。」など、小生には難しいことが多い。しかし、白石は、切支丹は国を奪う手段として布教をするものではないといことを見破ったのはさすがです。もし少しでも違った時代であれば、白石は十分信仰を理解し、禁令を解き、違った世になっていたのではないかと思います。

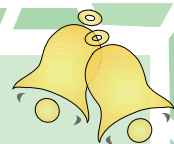


シドッチ神父上陸記念碑
1708年10月11日上陸

神父は、夜となく昼となく見守っている警護の人達を忍びなく思いながら、「私がここに來たのは、我が教えを伝える為であり、この国の人々を利し、世を救う為であり、万里を越えて来て、いま願いが叶ったものであり、逃げたとしても、身を寄せる所もない。私の手足を縛り、夜はゆっくり休ませてください」と申し出た。しかし、「お前は奉行が体を心配して、綿入れのごとき着物を勧めたのに、なぜ断るのだ」と言った。神父は、「飲食は命を保つために必要であるが、衣は安楽に頂くことはできません。薩摩で頂いたこの着物で十分生命を保てます」と答えたという。その時、白い肌襦袢だけの薄着であった。

（次号に続く）

お知らせ



転入

2009 年 5 月 30 日
アントニオ・ザカリア 今井 和夫さん
和泉町在住

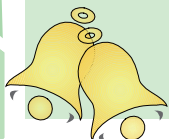
洗礼 おめでとうございます

パウロ 保科 道成さん
2009 年 4 月 11 日 復活徹夜祭・洗礼式



復活祭 お祝いのパーティー

2009 年 4 月 12 日



典礼こよみ (6 月)



日	曜		ミ サ ・ 勉 強 会	備 考
6	土		主日ミサ (18 時)	掃除 1 G (9 時 30 分)
7	日	三位一体の主日	主日ミサ (9 時)	堅信式
13	土		主日ミサ (18 時)	掃除 2 G (9 時 30 分)
14	日	キリストの聖体	主日ミサ (9 時)	教会委員会
19	金	イエスのみ心 (祭)	ミサ (10 時)	
20	土			掃除 3 G (9 時 30 分)
21	日	年間第 12 主日	主日ミサ (9 時)	
24	水	洗礼者ヨハネの誕生 (祭)		
27	土			掃除 4 G (9 時 30 分)
28	日	年間第 13 主日	子どもと共に捧げるミサ (9 時)	
29	月	聖ペトロ・聖パウロ使徒	ミサ (19 時)	

委員会だより

△5月10日(日) 10名出席▽

■報告・審議事項

- (1) 4月26日にミニバザーを実施し、収益は合計60,067円。
3万円ずつ浜松教会と、カリタス教会に送付した。
- (2) 第5地区教会学校合同遠足実施。本日(5月10日)中和田教会も参加している。
- (3) 第5地区共同宣教司僕委員会
5月17日小教区分担金を抛出
- (4) 堅信ミサ・祝賀会
6月7日を予定。準備を進める。

■各グループ連絡・報告事項

- a. 営繕G…
製造メーカーの保証期間8年の期限を迎え、消火器を発注した。(7本、49,245円)
- ◆男子トイレの改修日程を作成した。
6月初旬発注、7月6日着手、8月11日完成を予定。
- ◆女子トイレの手すり追加の見積り
を取得中
- ◆隣地との境の新しい壁は低いので、安全上フェンスを付けたいが、費用負担、交渉方法等要検討。
- ◆スロープの滑り止めがはがれていく。補修に1万円予算追加する。
- b. 典礼G…
◆典礼こよみについて
初金はなし。
29日の聖ペトロ・聖パウロは平日なので、19時からとする
- ◆堅信式
基本的には三位一体の主日の典礼に従う。



ミサは9時から10時40分を予定。司教様の分の駐車場とパーベキユースペースを確保。司教様控え室は応接間、スクリーン等片付ける必要有り。堅信者13名の名札を宣教Gにて準備。

パーティー会場は通常どおり聖堂とする。

料理はパーベキユース等を主体に、若干の料理を用意。

◆新しいオルガンが5月19日の午前中に入ってくる。5月24日と5月31日は堅信式と同じ聖歌にて実施。現オルガンは廃却処分。典礼委員会よりその旨ミサ後お知らせする。

c. 宣教G…

◆5月10日 第五地区合同遠足・藤沢新林公園、中和田から小学生10名程度参加

◆堅信の勉強日程… 5月10日、17日、24日

◆第五地区キリスト教セミナー… 11月7日、中谷神父、中和田教会

d. 財務G…

◆オルガン献金は予定を上回る567,759円でほぼ確定。

◆消耗品として椅子を7脚追加購入した。計10脚。

◆聖堂にきれいな椅子を揃えるため、追加購入してはどうかという意見あり。↓建物を考える会にて建物に合わせて全体としてどうしていくかを検討して行く。

e. 広報G…

◆連絡網の改訂版を作成中。完成後チェックを宜しく。

■小林神父からのお話し

◆教区からの新型インフルエンザへの対応要請…現状はまず手洗いが、うがい、マスク着用。感染状態が

広がりを見せた場合は、主任司祭、委員長、副委員長、事務G等を中心に対策を検討、臨時委員会にて迅速に対応することとする。

◆5月22、24日に教区懇談会がある。

◆5月24日ミサ後女子パウロ会の書籍即売会実施

◆5月3日 宮内神学生他計2名の助祭叙階。山手教会にて。

◆2009年度の聖体奉仕者研修会が6月21日と7月19日にある。中和田教会から派遣予定。予算を確保する。

◆堅信を受ける中高生10名に「おめでとう」の声をかけて欲しい。

委員会後記 小野委員長

◆待望の新オルガンが5月19日に聖堂に予定通り設置されました。これも信徒の皆様が多大なご協力、お祈りの賜物です。有難うございました。既に新オルガンに関するご意見や感想をいくつか皆様より頂いておりますが、お気付きの点などございましたらご遠慮なく教会委員にお知らせ下さい。より良いごミサの環境を実現するために音響効果など改善出来るところは検討して参りますので宜しくお願い申し上げます。

◆いよいよ6月7日に梅村司教様をお迎えして堅信ミサが挙行されます。今まで勉強を続けてこられた14名の受堅者の皆様の新たな門出を共に祝い、喜びを分かち合う貴重な場です。ミサ後の祝賀会も予定されており、是非皆様のご参加、ご協力をお願い申し上げます。



◆5月17日に藤沢教会で、本年度2回目の第5地区共同宣教司牧委員会が開催され、昨今の経済市況の急激な悪化に伴う移住者の方々への支援問題などが議論されました。司教団の緊急アピールに基づいて、4、5月に各小教区がそれぞれ独自に支援行動を行った内容が報告されましたが、
・支援金や支援物資だけではなく、例えば「就労支援」などいろいろ支援手段があるので、という意見、
・外国人が多い教会では多大な自助努力が行われて成果を挙げつつあるとの報告、
などがあっても今後も継続的に活動していくことになりました。
尚、この支援に関して中和田教会では福祉グループが中心となつて緊急ミニバザーが4月26日に行われ、「委員会だより」に記載の通り大きな成果を挙げることが出来ました。これも皆様に多大なご協力を頂いて賜物であり、心より御礼申し上げます。有難うございました。
この支援問題は一過性の問題ではなく、長期的に捉えて対応していくことが必要な課題です。今後福祉グループを軸に検討を進めてまいりますので、皆様のご参画、ご支援を是非宜しくお願い申し上げます。